

■ 概況

8/2~8/8のNYMEX・WTIIは、66.94~69.17ドルの範囲で推移した。

8月9日は、米中貿易摩擦による景気後退懸念、ドル高進行で小幅続落。9月限終値は前日比0.13ドル安の66.81ドル。週末10日は、持ち高調整の買い、IEA石油市場報告の2019年世界石油需要の日量10万バレル上方修正で3日ぶりに反発。なお、国内石油掘削リグ稼働数869基(前週比10基増)への反応は限定的。9月限終値は前日比0.82ドル高の67.63ドル。週明け13日は、クッシングの原油在庫170万バレル増加報告、OPEC月報の2019年世界石油需要の下方修正で反落。9月限終値は前日比0.43ドル安の67.20ドル。14日は、OPEC月報の7月サウジ産油量の減少報告にもかかわらず、ドル高進行による売りで小幅続落。9月限終値は前日比0.16ドル安の67.04ドル。15日は、ドル高の進行、EIA在庫週報の米国原油在庫の680万バレル増加で大きく続落。9月限終値は前日比2.03ドル安の65.01ドル。

16日は、米中摩擦緩和の動き等先行き不安後退により反発。9月限終値は前日比0.45ドル高の65.46ドル。週末17日は、ドル安の進行、米中摩擦の一層の緩和で続伸。国内石油掘削リグ稼働数869基で前週比横ばい。9月限終値は前日比0.45ドル高の65.91ドル。週明け20日は、米国株値上昇等投資家心理の改善を背景に続伸。9月限終値は前週末比0.52ドル高の66.43ドル。21日は、米国の10月から2ヶ月間の戦略石油備蓄(SPR)1100万バレル放出発表にもかかわらず、対イラン制裁強化をにらんだ買いで4営業日続伸、納会日の9月限の終値は同0.92ドル高の67.35ドル。22日は、EIA在庫週報の国内原油在庫が取り崩し報告で5営業日続伸した。10月限の終値は前日比2.02ドル高の67.86ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(10

月渡)は前々週71.40~73.10ドルの範囲で推移。8月9日71.40ドル、10日70.60ドル、13日71.40ドル、14日71.40ドル、15日70.90ドル、16日69.70ドル、17日69.90ドル、20日70.30ドル、21日70.90ドル、22日71.50ドルで推移した。

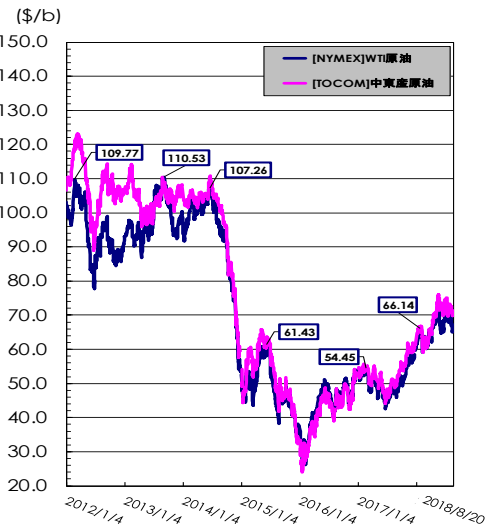
為替は、前々週111.24~111.84円の範囲で推移。8月9日110.91円、10日110.92円、13日110.56円、14日110.78円、15日111.40円、16日110.61円、17日110.89円、20日110.56円、21日109.90円、22日110.20円で推移した。

財務省が16日発表した貿易統計(速報)によると、7月下旬の原油輸入平均CIF価格は、54,121円/klで、前旬比1,299円高。ドル建てでは77.01ドルで前旬比0.93ドル高。為替レートは1ドル/111.73円。また、7月の原油輸入平均CIF価格は、53,420円/klで、前月比689円高。ドル建てでは76.69ドルで前旬比0.35ドル高。為替レートは1ドル/110.75円。

主要元売会社の8月第3週に適用する卸価格は、0.5円の値下げと据え置きに分かれた。原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油調達コストは値下がりした。また、第4週に適用する卸価格は、0.5円~1.5円の値下げだった。原油価格は値下がりし、為替レートもやや円高で、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、8月13日時点の小売価格は、ガソリンと軽油が前週比横ばい、灯油は同1円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは2週連続の横ばい、灯油は2週連続の値上がりだった。この週(8月第2週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社0.5円の値下がりとなった。また、8月20日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値下がり、軽油が同0.1円の値下がり、灯油は同1円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリンと軽油は3週ぶり、灯油は4週ぶりの値下がりだった。

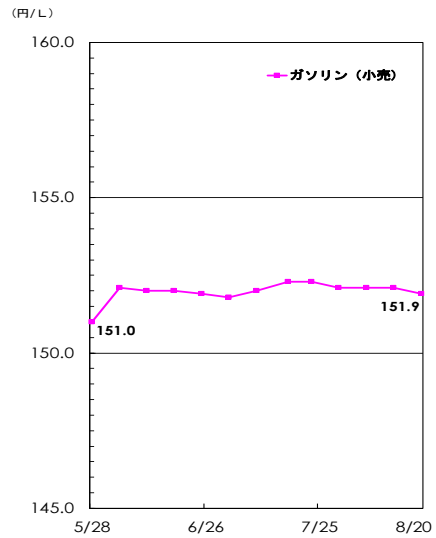
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/12 ~ 8/18	3,696 ▲ 201	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	94.4 ▲ 5.1	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	8/18	12,393 ▼ -53	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	8/20	70.10 ▼ -0.80	▲ 19.6
	WTI原油(NYMEX) (\$/ bbl)	8/20	66.43 ▼ -0.77	▲ 19.1
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	7月下旬	77.01 ▲ 0.93	▲ 28.66
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	54,121 ▲ 1,299	▲ 19,932
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.73 ▼ -1.36	▲ 0.68
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/20	111.56 ➡ 0.00	▼ -1.19



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/12 ~ 8/18	1,170 ▲ 35	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,100 ▼ -35	▲ -	
	輸出	"	32 ▼ -20	▼ -	
	在庫	8/18	1,490 ▲ 38	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/14 ~ 8/20	66.3 ▼ -0.3	▲ 17.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/14 ~ 8/20	64.1 ▲ 0.1	▲ 14.7
		(TOCOM/中部)	8/20	64.7 ▲ 0.9	▲ 15.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/20	151.9 ▼ -0.2	▲ 20.6	

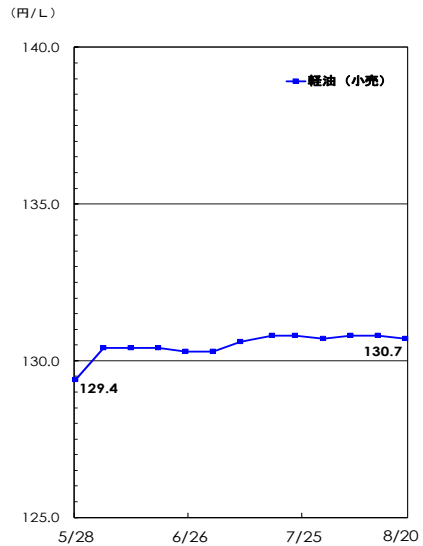
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

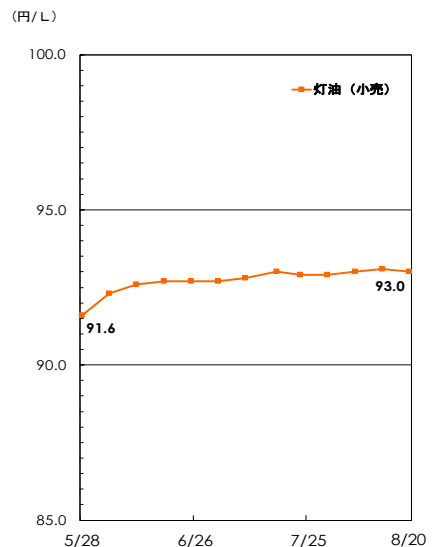
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/12 ~ 8/18	738 ▼ -93	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	343 ▼ -349	▼ -	
	輸出	"	188 ▲ 40	▼ -	
	在庫	8/18	1,620 ▲ 206	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/14 ~ 8/20	67.8 ▼ -0.4	▲ 19.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/14 ~ 8/20	68.3 ▼ -0.4	▲ 20.3
		(TOCOM/中部)	8/20	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/20	130.7 ▼ -0.1	▲ 20.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/12 ~ 8/18	257 ▲ 73	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	77 ▼ -15	▲ -	
	輸出	"	25 ▲ 25	▲ -	
	在庫	8/18	1,980 ▲ 155	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/14 ~ 8/20	66.7 ▼ -0.5	▲ 19.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/14 ~ 8/20	65.3 ▼ -0.8	▲ 17.8
		(TOCOM/中部)	8/20	66.0 ▼ -0.6	▲ 18.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/20	93.0 ▼ -0.1	▲ 16.9	



■ 関連情報

1 海外/原油

8月22日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、国内原油在庫が市場予想(前週比150万バレル)を大きく上回る同580万バレルの取り崩しが報じられたこと、また、イラン原油の供給削減懸念が再燃したことから、5営業日続伸した。10月限の終値は前日比2.02ドル高の67.80ドル、11月限の終値は前日比2.02ドル高の67.51ドルだった。

EIAによると、8月13日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.9セント値下がりの1ガロン2.843ドル(83.7円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.6セント値下がりの3.217ドル(94.7円/ℓ)。また、8月20日時点のガソリンの小売価格

は、前週比2.2セント値下がりの1ガロン2.821ドル(83.0円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比1.0セント値下がりの3.207ドル(94.4円/ℓ)ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルは3週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年8月12日～8月18日に休止したトッパー能力は0.9万バレル/日で、前週に対して21.5万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は369.6万klと、前週に比べ20.1万kl増加。前年に対しては12.6万klの減少。トッパー稼働率は94.4%と前週に対して5.1ポイントの増加、前年に対しては3.2ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて軽油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/3.1%増、ジェット/10.5%増、灯油/39.7%増、軽油/11.2%減、A重油/10.7%増、C重油/28.3%減。今週のC重油の輸入は19.8万kl(前週比11.4万kl増)。軽油の輸出は18.8万kl(前週比4.0万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではジェット、軽油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は110.0万kl(対前週3.2%減)と前週比で2週振りまで減少となり、5週連続で100万klを上回った。ジェット10.6万kl(対前週84.6%増)、灯油7.7万kl(対前週16.5%減)、軽油34.3万kl(対前週

50.4%減)、A重油10.1万kl(対前週50.6%減)、C重油22.3万kl(対前週44.1%減)。

(単位:千KL)

	今週 (8/12 ~ 8/18)	前週 (8/5 ~ 8/11)	前週比
ガソリン	1,100	1,135	▼ -35 (-3%)
ジェット燃料	106	58	▲ 48 (83%)
灯油	77	92	▼ -15 (-16%)
軽油	343	692	▼ -349 (-50%)
A重油	101	203	▼ -102 (-50%)
C重油	223	400	▼ -177 (-44%)
合計	1,950	2,580	▼ -630 (-24%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月18日時点の在庫は、全ての油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは149.0万kl、前週差3.8万kl増。前年に対しては22.0万kl少ない。

灯油は198.0万kl、前週差15.5万kl増。前年に対しては24.6万kl少ない。

軽油は162.0万kl、前週差20.6万kl増。前年に対しては2.6万kl多い。

A重油は78.0万kl、前週差8.0万kl増。前年に対しては4.0万kl少ない。

C重油は188.8万kl、前週差4.6万kl増。前年に対しては32.7万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (8/18)	前週 (8/11)	前週比
ガソリン	1,490	1,452	▲ 38 (3%)
ジェット燃料	1,082	1,054	▲ 28 (3%)
灯油	1,980	1,825	▲ 155 (8%)
軽油	1,620	1,414	▲ 206 (15%)
A重油	780	700	▲ 80 (11%)
C重油	1,888	1,842	▲ 46 (2%)
合計	8,840	8,287	▲ 553 (6.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月7日から8月13日の原油価格は前週対比で値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりがりしたと見られる。陸上スポット価格は、同期間、ガソリン120～121円台で値下がり、軽油68円台でやや値下がり、灯油67円台でやや値下がりして推移した。海上スポット価格は、同期間でガソリン122～124円台で大きく値下がり、軽油70円台で横ばい、灯油65～67円台で大きく値下がりして推移した。先物価格は、同期間で、ガソリン117～118円台で値下がり、軽油68～69円台で値下がり、灯油65～67円台で大きく値下がりして推移した。元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、0.5円の値下げと据え置きに分かれた。

また、8月14日から8月20日の原油価格は前週対比で値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりがりしたと見られる。陸上スポット価格は、同期間、ガソリン120円台でほぼ横ばい、軽油67～68円台で値下がり後ほぼ横ばいで推移した。海上スポット価格は、同期間でガソリン122～123円台でやや値上がり、軽油69～70円台で値下がり後横ばい、灯油65円台で出入り後やや値下がりして推移した。先物価格は、同期間で、ガソリン117～118円台で値上がり後やや軟化、軽油68円台で横ばい、灯油64～65円台で値下がり後やや回復して移した。元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、0.5～1.5円の値下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、ガソリン先物を除き、それ以外の全取引は値下がりがりした。

8月第4週(8月23日～8月29日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(8月14日～8月20日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.3円の値下がり、灯油は0.5円の値下がり、軽油も0.4円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.6円の値下がり、灯油は0.8円の値下がり、軽油は0.4円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.1円の値上がり、灯油は0.8円の値下がり、軽油は0.4円の値下がりだった。原油価格は値下がりし、為替も円高で、原油コストは値下がりがりした。

8月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5～1.5円の値下げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (8/14～8/20)	前週 (8/7～8/13)	前週比
スポット価格	レギュラー	66.3	66.6	▼-0.3
	灯油	66.7	67.2	▼-0.5
	軽油	67.8	68.2	▼-0.4
(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (8/14～8/20)	前週 (8/7～8/13)	前週比
先物価格	レギュラー	64.1	64.0	▲0.1
	灯油	65.3	66.1	▼-0.8
	軽油	68.3	68.7	▼-0.4

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/14～8/20実績値) (単位: 円/ℓ)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼-0.3	▲0.1	▼-0.1
灯油	▼-0.5	▼-0.8	▼-0.7
軽油	▼-0.4	▼-0.4	▼-0.4
A重油	▼-0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上/バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月13日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの152.1円、軽油も同横ばいの130.8円、灯油は同0.1円高の93.1円(18ℓベースでは1円高の1,675円)。都道府県別に、ガソリンの値上がりは16都府県、横ばいは9県、値下がりは22道府県。全国最安値は徳島県の146.3円(前週比0.2円安)、次が埼玉県の147.7円(同0.1円安)、最高値は長崎県の162.1円(同0.5円高)。最も値上がりしたのは0.7円高の沖縄県(159.0円)、最も値下がりしたのは0.5円安の新潟県(150.7円)。先々週の原油コストは値下がりがりし元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社0.5円の値下げだった。

8月20日時点のSS店頭価格はガソリンが前週比0.2円安の151.9円、軽油は同0.1円安の130.7円、灯油は同0.1円安の

93.0円(18ℓベースでは1円安の1,674円)。ガソリンと軽油は3週ぶりの値下がりで、灯油は4週ぶりの値下がり。都道府県別に、ガソリンの値上がりは15府県、横ばいは9県、値下がりは23都道府県。全国最安値は徳島県の146.4円(前週比0.1円高)、次が埼玉県の147.8円(同0.1円高)、最高値は長崎県の161.6円(同0.5円安)。最も値上がりしたのは、0.3円高の沖縄県(159.3円)、最も値下がりしたのは、1.4円安の神奈川県(148.8円)。先週の原油コストは値下がりがりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに0.5円の値下げと据え置きに分かれた。今週の原油価格は値下がりし、為替レートの円高で、原油コストは値下がりがりした。次週(8月27日)のガソリンの小売価格は小幅な値下がりがり予想される。

(資工庁公表)		(単位: 円/ℓ)			
[週動向]		今週 (8/20)	前週 (8/13)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	151.9	152.1	▼-0.2	08/8/4 185.1
	灯油	93.0	93.1	▼-0.1	08/8/11 132.1
	軽油	130.7	130.8	▼-0.1	08/8/4 167.4

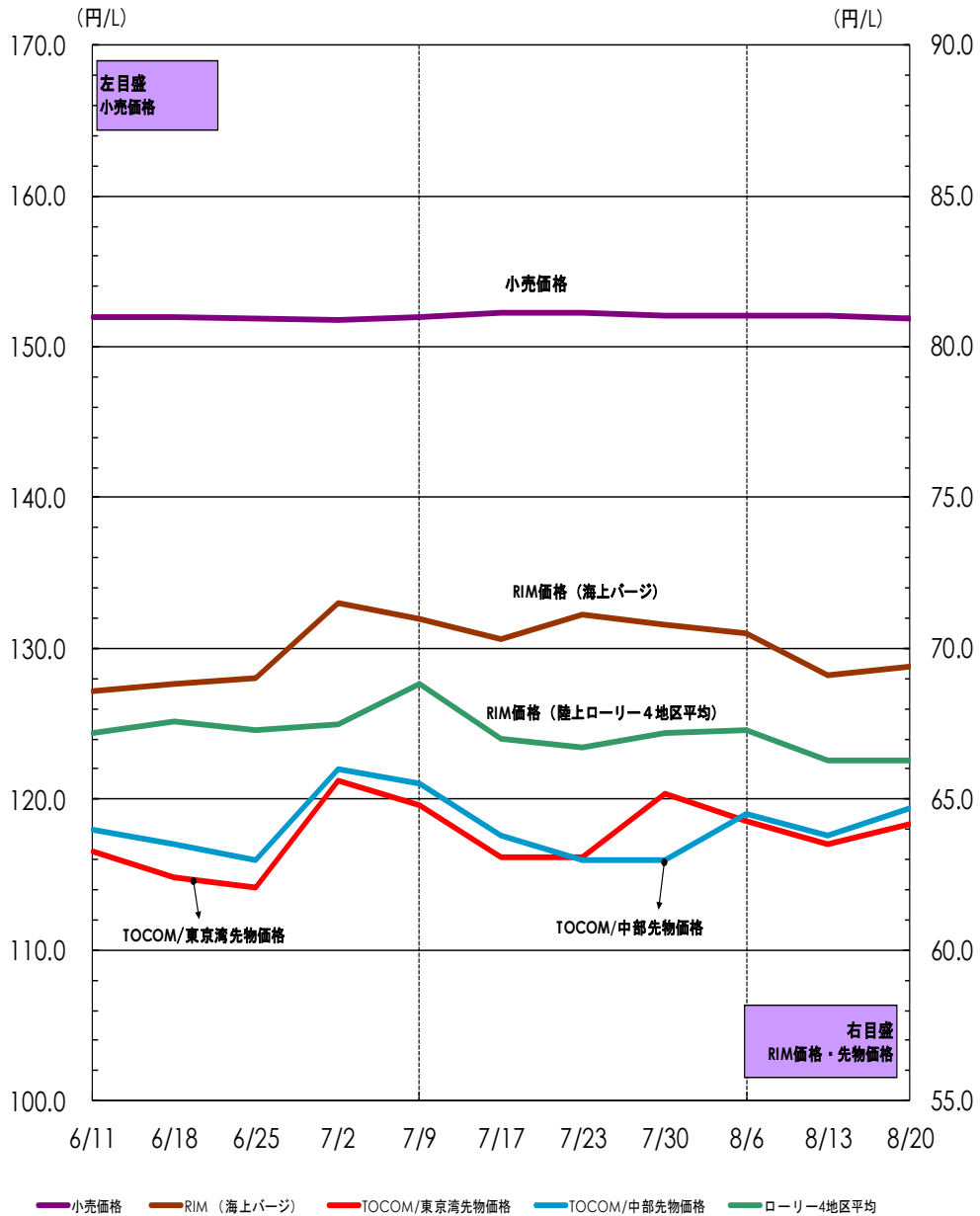
※現金一般価格の全国平均値(消費税込)

07年4月以降2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/6/11 ~ 2018/8/20)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第20号)の公表は、8/31(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年3月末現在)は、7月31日(火)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。